

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

高松市立協和中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
6学級 205名	6学級 195名	6学級 190名	2学級 6名	20学級 596名

○教員数 39名

◆学校の特徴

本校生徒は、様々な負荷を背負っている生徒が多い。そのため、全国学力・学習状況調査(平成26・27・28年度)でも、自分への自信や将来の夢や目標への努力といった項目が国・県ともに下回るなど、自尊感情や自己肯定感が低い。これに起因する生徒指導上の課題は大きいものがあり、その影響が学力や進路にでている。

そこで、本校ではかつてより人権教育を基礎とした「なかまづくり」を通して、互いに支え合う力の育成を行ってきた。これにより学校は、以前に比べれば落ち着いたものとなってきているが、まだまだ十分とは言えず、集中して学習に取り組めなかったり、授業中に居眠りや私語をしたり、他のことをしたりする生徒など、いわゆる「学習からの逃避」が依然として本校の中心的課題である。

II 研究主題等

研究主題

みんながもれなく「学び合う」授業づくり

～協同学習による授業改善～

◆研究主題設定の理由

本校の実態から、生徒一人ひとりの進路を保障し、将来へと希望をつなげていくには、生徒指導と相まって日々の学習指導における授業の充実がとても重要であると考えている。授業を充実させれば、生徒が授業に入り、授業中に寝ず、授業に集中する。そうすれば、学力も上がり、進路選択の幅も拡大し、将来への展望が開け、学校から離脱する生徒も減り、自分もそして他者をも大切にしたい社会的行動のとれる生徒への育ちも期待できる。

そこで、すべての生徒がもれなく学習に取り組む授業への転換には、従来の一方的教え込みの学習のみでは不十分であることを踏まえ、アクティブ・ラーニングの3要素である①課題解決的な学習課題の設定、②スモールセル(少人数)構成による協働、③ディスカス(討論)とシェアリング(意見交流)を取り入れることとした。さらには、協同学習の基本的な考えである、生徒同士の教え合う・聴き合う関係性により、一人も教室からこぼさず、一人残らず生徒の学ぶ権利を保障しようとする考えを基底におき、授業改善を行い、その成果を生徒指導の充実、さらには進路保障の充実につなげたいと考えて、標記の研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

本研究に取り組んで4年目となる。初年度の研究は、いかに円滑に協同学習を導入するかがポイントであった。2年目は、授業改善を学校全体の取組とすること、3年目は、深い学びにつながる学習課題の分析と授業改善をいかに継続するかについて研究した。本年度は、研究開始当初からの教員が33%となり、58%が赴任2年以内、さらには、全体の45%が教職5年以内となる中、協同学習による授業改善をいかに新しい教員や若い教員に”継承”するかが大きな課題となる。そこで、本年度の研究をこれまでの研究継続に加え、”いかに効果的に継承を行うか”を視野に進めていきたい。

授業改善を”継続 “するために

(1) 学び合う関係性のアイデア ～訊くことができる・説くことができる生徒に～

授業改善の取組として、これまで学び合う関係性を高める方法として①コの字型の机の配置、②ペア学習やグループ学習、③コミュニケーションツールの活用、④教師の声かけなどを共通の実践として研究に取り組んできた。これらの取組を基本としつつ、本年度は各教科の特性に応じた工夫を考えるようにしたい。共通の取組を基礎としつつも、それで終わるのではなく、各教員が新たな手法を創造していくことが、各教員の”継続意欲化”につながり、それが結果として”授業改善の継続”につながると考える。机の配置をコの字にすることは方法で、あくまで目的は“学び合う関係性”であり、研究低迷の要因の一つは、方法が目的となる場合であると考えられているからである。

(2) 教室の外からの授業支援 ～主体的な学びに向けて～

主体的な学びを促進する要因には、家庭学習など教室の外での要素が大きい。また、自尊感情の向上も欠かせない要素である。特に本校生徒の学習時間は県平均を下回っており、逆にスマホやケータイを使用する時間は1.5倍となっている。本年度は、これまでの保護者や地域への授業改善の明示化とともに家庭学習向上に向けた働きかけに取り組んだ。また、生徒への授業改善の取組の明示化を通して、生徒による授業評価や生徒が授業評価項目を考えるなど、生徒とともに授業を改善していこうとする取組も行いたい。生徒の自主的な取組とそれに対する賞賛は、自尊感情の向上に寄与するとも考えている。

(3) 学習課題の蓄積と検証 ～深い学びに向けて～

深い学びは、ひとえに学習課題の設定にかかっている。本校は、「共有の課題」(易)と「ジャンプの課題」(難)の二段構えの学習課題設定により、学習意欲の持続と向上を図ってきた。しかし、この課題設定に多くの教員がたいへん苦慮している。そこで、これまでも課題設定の具体例を蓄積し、それを検証することで、課題設定のより効果的な有り様を、教科の枠を越えて考えることができ、その蓄積は多くの学習課題からその法則性を帰納的に抽出してきた。本年度も、この取組を継続し、年間の授業を通した、質の高い学習課題が蓄積されるよう実践することが、今後の研究の継続につながると考える。

授業改善を “継承 “するために

(1) 授業観察シートの工夫と蓄積

これまでも、授業観察シートを利用し、生徒の変容を主体とした授業観察、授業と同様の流れで教師同士も学び合う研究協議を行うなどの実践をしてきた。他者の授業を観る視点は、その教師の授業づくりの視点と表裏一体である。この点に着目し、協同学習の手法や目的を具体的に盛り込んだ授業観察と研究協議を行うことが、協同学習による授業改善の”効果的な継承”につながると考える。そこで、本年度は、①授業観察シートを見直し、これを使用した授業観察が協同学習による授業改善の視点を身につけることにつながるものとする。②授業を観てもらったり、他者の授業を観たりする機会を増やす。③授業観察後の記入された授業観察シートの保存・蓄積と分析・評価を行うなどして、協同学習の手法や目的が効果的に継承されるようにする。

(2) 生徒理解のためのデータ蓄積

協同学習は、一方では生徒一人ひとりの変容に視点をあてた授業改善を基本としつつ、その実、他方では学び合う関係性の集団づくりを基底としている。そこで、授業改善の取組を始めて4年目となる利点を生かし、個人の変容(ミクロ)、集団の変容(マクロ)の双方の視点から、協同学習アンケートや全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の結果を分析し、何をどうすればどうなるかという分析につなげたい。例えば、本校においては、「話し合い活動をよく行っていた」の設問に対して肯定的回答が90%を越える集団は、学力点が向上するという予想が立ちつつある。このようなデータは、新しい教員の「なぜ、そうしなければならぬのか」の根拠となり、根拠は”効果的な継承”につながると考える。

III 研究実践

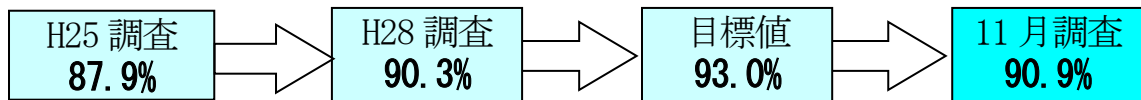
授業改善を“継続”するために

☆学び合う関係性を向上させる取組の継続に向けて ～訊く力・説く力を育てる教員に～

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (生徒質問紙) 普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計 1・2年生



※1・2年生「①思う」のみ集計 本校62.0% 県平均39.3% 県との差 +22.7% [県学力学習状況調査]

※3年生「①思う」のみ集計 本校67.0% 国平均38.9% 国との差 +28.1% [全国学力学習状況調査]

指標の達成に向けた実践

(1) 教員の共通実践を合い言葉で設定する【共通実践(例)】

授業の中で話し合う体制が取られなければ、対話的な学びが始まらないことから、年度当初に全教員共通の実践として、以下の点を職員会議や校内研修会の毎に呼びかけ・確認を行った。

①「少なくとも1時間に1回は話し合い活動を」

教員の状況や単元の内容に応じた柔軟な取組を保障し、無理なく継続していこう

②「早めにペアかグループを」

余談話をせず、早い段階でペア学習やグループ学習を実施しよう

③「ちょっとしたことでも」

話し合いに限らず、ちょっとしたことでもペアやグループで確認させるなど工夫してみよう



▲ちょっとしたことでも教え合い

(2) 学び合いを促進するアイデアを考え、交流する【個別実践(例)】

各教科の特性や各教員の個性に応じた取組の中で、学び合いという点で手応えのあった取組事例をお互いに交流する。

◇学び合いを活性化させるのに効果的だと感じた取組や教具(例)

国語 短歌や俳句、古典等を声に出してお互いに読み合う機会を増やした。

数学 (ペア学習で) 音声計算で授業をスタートさせている。

国語 話し合いさせるだけでなく、話し合う態度をほめるようにしている。

音楽 曲のイメージがわかりやすいように身近に関連する絵やイメージ画を拡大コピーして掲示している。

美術 仏像の特長を説明し合う時、**実物(レプリカ)**を使用したらとても話し合いが活発化した。

社会 A3のコミュニケーションボードは小さいので、A2を使用したら、生徒の表現に広がりがあった。



▲実物の効果を実感。仏像の良さを学芸員になったつもりで説明する生徒

この例のように、学び合いの場面をルーチンワーク化したり、**身近・実物**をキーワードとして話し合いが促進されるように工夫したり、さらには**コミュニケーションツールの見直し**を行うといった各教員個別の実践もでてきた。研究授業の時の授業だけではなく、同僚性のもと、日々、このような個別の工夫・アイデアをお互いに交流し合うことは、お互いの創造性の刺激にもなり、マナー化や授業改善の継続に大いに貢献すると考えている。

○補足指標 「ほとんどの授業でペア学習やグループ学習を行えている。」6月72.7%→12月83.3%

[H29 協同学習アンケート]

◆指標設定と達成に向けた取組

2 (教員アンケート) 普通の授業で児童生徒の学び合う場を取り入れていますか。

指標 「①よく当てはまる+②だいたい当てはまる」の合計



「協同学習アンケート H28-29. 12月」

指標の達成に向けた実践

(1) 教員の意識改革のための研修

① 目的に応じた4種類の研修の実施

授業改善の継続には、教員の意識改革が最も重要であり、毎年の教職員の異動も含め、この点が最も難しい点でもある。そこで、本校では授業改善の必要性や生徒の実態を知り、実践するために次の4種類の研修を実施している。



▲本校5年目の教員が1年目教員の道徳を参観 (相互参観)

- A【学校課題研修】～なぜ、本校生徒にとって進路保障が重要なのか等、学校課題を理解する研修
- B【生徒理解研修】～生徒がどのような課題をもっているのか等、個々の生徒の現状を知る研修
- C【スタートアップ研修】～協同学習の基本を学ぶ導入研修で、共通実践の内容を申し合わせる研修
- D【公開授業研修】～全員、年4回、授業公開や相互参観を実施し、授業力の向上を図る研修
(内3回は県内外に公開する。相互参観はペア教員で随時行う。)

② 現状に合わせた工夫

- a **研修時間の確保** ～ 毎週月曜日の部活動を中止して、各種研修を実施
- b **多様性の確保** ～ 教科の枠を越えたグルーピングで研究協議を実施
- c **授業研究の工夫** ～ 生徒理解の視点が盛り込まれた**授業観察シート**を使用した観察記録の活用
- d **指導案の工夫** ～ ポイントを絞った**授業デザイン**形式を使用
- e **授業評価の実施** ～ 生徒会の意見を参考に作成した**生徒による授業(評価)アンケート**を実施。教員は、よりダイレクトに自分の授業に対する生徒の評価を知ることができる。

平成29年度 先生の授業に関するアンケート (7月)

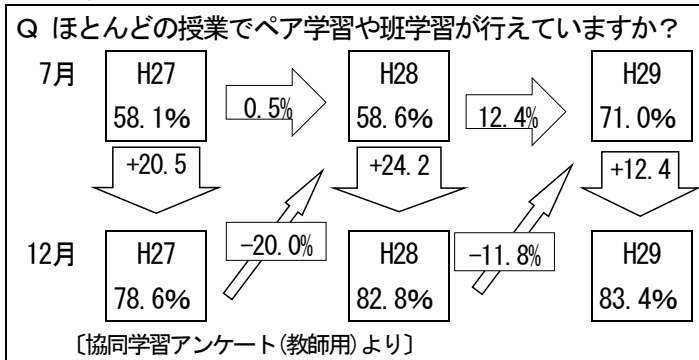
4月～現在までの間に、各教科担当の先生についてのアンケートです。それぞれの質問に対して、選択肢の中から当てはまる数字をぬりつけてください。ご協力をお願いします。本アンケートは、授業改善を目的に実施するものですので、結果の成績には、いっさい影響しません。正確なところまで回答して下さい。
※注意事項等詳しくお読み下さい。

質問	1	2	3	4	5
1.先生は、授業の開始と終わりの時間を守れていますか?	④	③	②	①	
2.先生は、課題シートを切り、学習課題が黒板に書かれていますか?	④	③	②	①	
3.先生は、席でいる人に対して1分以内に声をかけていますか?	④	③	②	①	
4.分からない時に「分かりません」と言える雰囲気ですか?	④	③	②	①	
5.私の(授業-授業資料-小道具)を活用できていますか?	④	③	②	①	
6.先生が書く板書の文字や内容は分かりやすいですか?	④	③	②	①	
7.先生の指示や説明は、分かりやすいですか? (声量や内容)	④	③	②	①	

▲生徒による授業評価アンケート

(2) 結果を年内比較と経年比較で検証

教職員の異動と若年教員の増加を考慮して、(1)のA～Cは年度当初の早い段階で実施し、Dは年間を通して合計4回実施した。検証方法として、「教員の意識の変容」の年内比較と経年比較を行った。その結果は、次のとおりである。



○年内比較 毎年7月と比べ、12月は向上する。これは、研修により新しい教員にも授業改善の意識が浸透するからといえる。

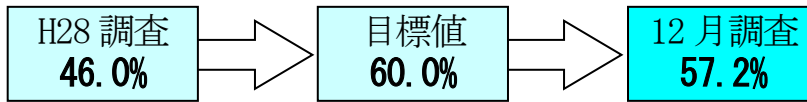
○経年比較 他の年に比べ、本年度7月の値が高いのは、本年度特に研修時間を確保し、4種類の研修それぞれの目的を明確にして実施したことが奏功している。また、今年(6月)に初めて実施した生徒による授業(評価)アンケートも影響している。

☆学習課題の蓄積と検証 ～深い学びのために～

◆指標設定と達成に向けた取組

3 (教員アンケート) 共有の課題とジャンプの課題を設定していますか。

指標 「①よく当てはまる+②だいたい当てはまる」の合計



「協同学習アンケート H28-29. 12月」

指標の達成に向けた実践

(1) 手応えのあった学習課題の収集と分析

① 収集方法

- ・教員アンケートから手応えのあった学習課題を収集
- ・年4回の公開校内研究会の授業プランから収集
- ・生徒による授業評価アンケートから収集

② 学習課題の分析の継続 ～学習課題の重要性を認識するために～

★対人的学習課題

日常生活において他者の感情や社会生活のさまざまな合図を深く読み取ることを促す学習課題

例 英語「デイルを名所にご案内!」、社会「コンビニでお買い物。契約成立はどの瞬間?」「宅配ピザをキャンセルできるのはどんな時?」

★内省的学習課題

自分の長所や短所、願い、目標、動機を省みて、社会規範行動への自覚を促す学習課題

例 道徳「シカト!その時君は?」「誰が犯人?じぶんならどうする」

★博物学的学習課題

様々な事物から、物事の法則を得るために、プロジェクト的に取り組むことを促す学習課題

例 保体「生活改造計画!」、理科「気体Xの正体を突き止めろ!」、数学「誰をオリンピック代表に選ぶべきか?(代表値等)」

3種類の学習課題の共通点は、いずれも「社会とのつながり」を意識した学習課題となっている点である。また、ジャンプの課題は、これに加え、学力上位の生徒もそうでない生徒も平等に「あーでもない、こーでもない」と知恵を出し合える水準がポイントである。

(2) 結果と影響

学習課題の収集と分析の試みは、教員の授業改善への意識を高めるとともに、新しく赴任してきた教員にとって、これまでの取組の継承にもつながる。

この取組の結果、「授業の中で共有の課題とジャンプの課題を設定している。」とする教員が増えてきた。また、これまで、ジャンプの課題を設定しても実際は共有の課題に終始し、ジャンプの課題までは難しいと感じる教員が多かった。本年度は、この取組が奏功し、「2回に1回はジャンプの課題までいけている。」とする教員が年度当初の27%から12月には36.1%に増加してきた。

○補足指標 「1、2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか?」
(「よく当てはまる」のみ) H28:38.9%→H29:68.1%(県58.3%) [県学習状況調査]



▲香川県の名所をALTの先生に紹介しよう



▲ジャンプの課題に挑戦

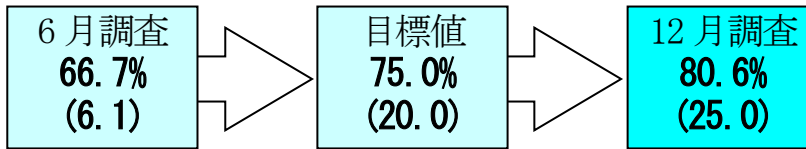
指導技術を”継承”するために

★継承方法 その1 研修と実践を一体化するしくみ

◆指標設定と達成に向けた取組

4 (教員アンケート) 生徒の多様な考えを引き出したたり、思考を深めたりするような発問や助言等をしていますか。

指標 「①よく当てはまる+②だいたい当てはまる」の合計



※()内は①のみ 「協同学習アンケート H29」

指標の達成に向けた実践

(1) 生徒の学びの現実から学ぶ研修への転換 ～実践と研修の一体化で技術の継承を図る～

①授業観察の工夫 ～ 学び合う関係性に特化した「授業観察シート」の利用～

観察シート(右)を利用して、生徒1人(又は1班4人)の学びの様子を時系列でしっかりと見取る。

(参照:「見取りのポイント」)

②研究協議の工夫

観察対象が同じ教員がグループとなり、協議を行う。その後、全体での共有を行う。その際、教科内容ではなく、生徒の学びの様子を中心に協議する。

*

教科に関係なく、学内の教員全員が同じ視点で取り組めるため、研修意欲の維持・向上につながる。また、観察や研究協議の中に協同学習の視点や手法を盛り込むことで、協同学習による授業づくりのポイントが自然と継承されるようにしている。

協同学習授業観察シート記入について
2017年 11月 1日(水) 5時間目
第 2学年 ○ 組 (教科: 英語 授業者: ○○ ○○ 教諭)

○授業の流れ(1コマ 2分30秒)

時間の流れ	個人作業・思考	全体での共有	協同(ペア)	協同(グループ)	協同(全員)	教師のかかわり(発問・グループへの働きかけ等)	生徒の動き			
							Aさん	Bさん	Cくん	
<例>				○		・机間指導で、助言する	・A→Bに教える	・Bは、課題に取り組み	・Cは起き上がる	記録形式でメモをとる
14:30										○印でチェック
①										
②										
③										

▲指導技術を継承のための授業観察シート

見取りのポイント

ア 生徒の身体からの見取り

視線、表情、手の動き、座り方などを見る

イ つまずきやつぶやきからの見取り

課題が理解できているか、なぜ理解できていないのかを探る

ウ 生徒のつながりからの見取り

生徒と課題、生徒と生徒、生徒と教師のつながりがどうかを見る

(2) 結果と影響

教員アンケートでは「学習目標の提示」(+0.2)や「最後の振り返り」(+17.9)、「ペア学習やグループ学習の設定」(+9.2)など基本的な指標の年内比較で改善が見られた(前掲)。しかし、「最後の振り返り」は、生徒アンケートでは減少(-7.4)しており、生徒が自主的に振り返りを行う取組に課題が見られる。



▲授業観察(見取り)を行う教員

○補足指標 「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。」

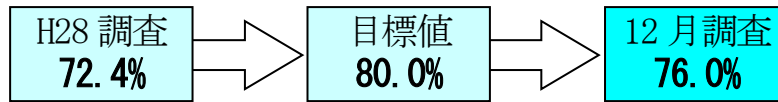
H28:65.0%→H29:71.1% [県学習状況調査]

★継承方法 その2 コの字型の利点とは？ ～改善方向の確かさを知らせる～

◆指標設定と達成に向けた取組

5 (生徒質問紙) 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

指標 「①よく当てはまる+②だいたい当てはまる」の合計



「協同学習アンケート H28-29. 12月」

指標の達成に向けた実践

(1) ”もれなく学び合う”環境づくり

① 机の配置 “コの字型”の利点

- ・教師が真ん中に立ち隅々まで声かけしやすい【公平性】
- ・生徒同士お互いの存在が確認できる【安心感】
- ・4人グループを作りやすい【利便性】

② 教師の共通行動

- ・授業の最初は後方の生徒から、そして前方に【隅々まで】
- ・寝ている子には1分以内に声かけを【見すてず】

③ 授業改善の取組の明示化

学校だより、全校朝礼等で、意識して協同学習による授業改善に取り組んでいることやその目的、願いを地域や保護者、そして生徒自身に知らせる。

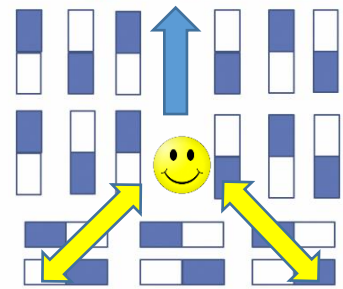
④ 授業の公開

教師にとって、自分の授業を見てもらうことは、緊張感とやりがいにつながり、授業改善により効果を与える。また、公開することで多くの自分が気づかなかった改善点が見えてくる。

年間4回の公開研究会を実施。本年度は、校区内小学校教員、県内外の

中学校・高校教員に加え、大学の教員や大学院生も29名参加するなど、さらなる広がりが見られた。

机の配置は男女市松模様



▲教師が中央に立るとい、コの字型の良さを生かす



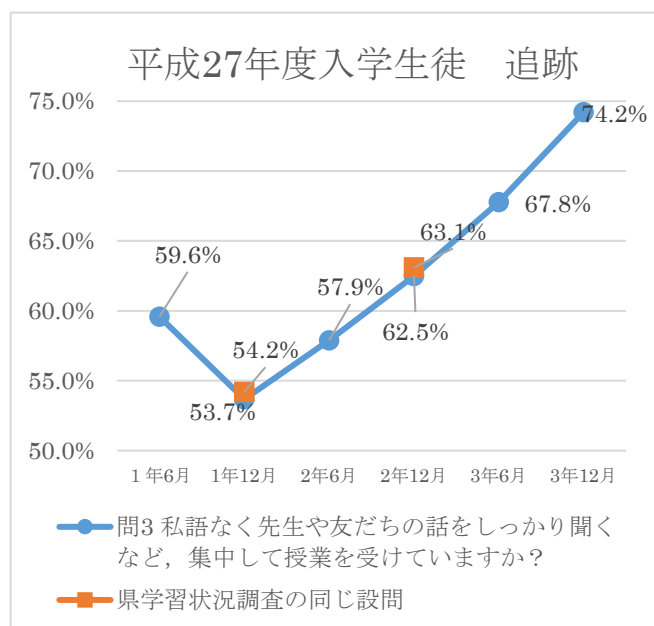
▲1分以内に声かけをかける

(2) 結果と影響

授業を公開することで様々な意見が得られる。その中に、コの字の配置は「私語が増える」との指摘がある。新たに赴任してくる教員も、そう考える。しかし、実際に調べると違う結果となっていることが分かる。(右グラフ参照)

授業に集中できない原因は、コの字の配置によるものではなく、他の要因が大きい。コの字型では、騒がしいときは教員が教室の中央部に立つと効果的であることが分かっており、むしろコの字の良さを生かした取組により、私語は改善されている。

このように授業を公開することは、検証のための新たな視点を得るよい機会にもなっている。



特徴的な取組

★卒業生の意見を改善に生かす 追跡調査アンケート

◆趣旨と目的：本校の卒業生たちが、中学校時代に受けた協同学習について、高校生活をする中で、中学校時代を振り返ってどのように感じているかを調査した。この結果を教員が真摯に受け止め、授業改善の参考にするとともに、授業改善の営みを続けようとする気持ちを高める。

◆調査対象：6つの高校に在籍する卒業生73名・・・高3(H25・26在籍)、高2(H25～27在籍)

【励みになった回答】

質問 コの字型の形態でよかったと思うことは何ですか？



- ◎分からないところをすぐに聞ける(話しやすかった)
- ◎みんなで授業を受けているという感じがしていた
- ◎みんなの顔が見えるので、全員に話しかけられる
- ◎人が頑張っている様子が見えるので自分もやろうという気になった
- ◎あまりしゃべらない人とも話すことができた
- ◎寝る人が減った



質問 グループ学習をしてよかったことは何ですか？



- ◎自分の考えていなかった他の人の考えが聞ける
- ◎4人だと全員と会話ができ困ったことを解決しやすい
- ◎分からないところを教えてもらえるので理解度が高まった
- ◎分からない所を質問できるようになった。人に質問されたら分かりやすく教えてあげられるようになった
- ◎ふだん話せてない子と話す機会がとれた
- ◎授業が楽しかった
- ◎意見を言いやすいので深く授業に入り込める
- ◎コミュニケーション能力が向上する

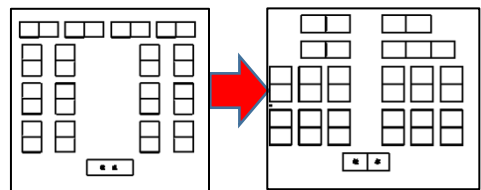
【改善に生かした回答】

質問 コの字型の形態で困ったことは何ですか？

- ◎黒板を見るときに首を横に向かないといけなかったので首が少し痛くなった
- ◎場所によっては黒板が見えづらい
- ◎通路が狭い(移動しづらい)
- ◎たまに目が合うと恥ずかしかった
誰かに見られているという状況が苦手だった
- ◎勉強以外のことをつい話してしまう
(うるさくなることがあった)

改善

- ◎座席配置の改善(真ん中の空間を狭く)



- ◎板書内容の精選・コミュニケーションシートの活用

質問 グループ学習で困ったことは何ですか？

- ◎周りが話し合っていたので寝られなかった
- ◎関係のない話をしてしまうことがあった
- ◎受け身になることも多かった(友だちにまかせっきりになってしまうことがあった)
- ◎仲が良くない人との話し合いができない
- ◎自分のペースで問題を解くことができない時があった
- ◎グループ活動が多くてめんどうだと思えることもあった

改善

- ◎グループでの役割を固定しない
- ◎全員に発言する機会を設ける

教師のより多くの声かけ
『ペアで確認してみよう』
『グループの中で誰があてられても言えるように説明しましょう』

IV 研究の成果と課題

(1) 学び合う関係性を高める授業改善を継続するために

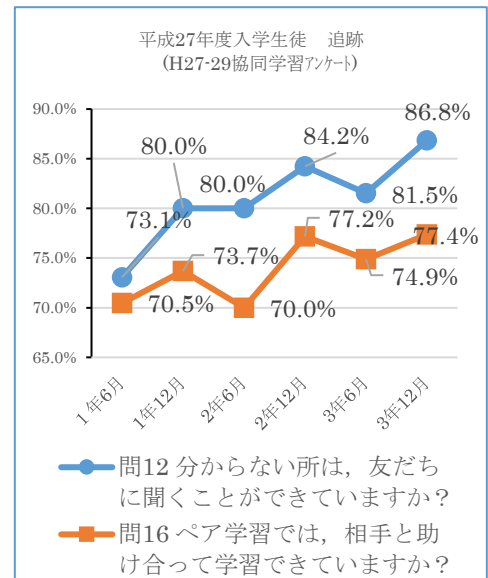
① 続けるための合い言葉

教員がそれぞれの状況に応じて取り組めるような共通実践を合い言葉で設定し、その継続を促すことで、常に80～90%の生徒が「話し合い活動をよく行っている」と感じる水準になってきた。

② 工夫やアイデアの交流

学び合いを活性化させるアイデアを交流した。これにより教員の改善意欲を高め、取組の継続を図った。

改善の取組を継続した学年は、「分からない所を友だちに聞く」、「協力してペア学習する」といった”学び合う関係性”の指標が向上しており、継続の成果を示している。



(2) 学び手からの授業改善支援

生徒による授業(評価)アンケートを全教員が6月に実施した。実施後の教員アンケートから、自分が十分に行っていると思っていたことも、生徒は十分と考えていなかったことに気づき、少なからずショックを覚えている教員が多かったようである。その典型が次のような教員の感想である。

「自分ではしているつもりだったが、生徒はもっとグループ学習をして欲しいのだと思った。」

学校は、毎年、教員が入れ替わる。この事実に立脚すれば、協同学習による授業改善を継続させるポイントは、授業に対する生徒の学び手の意見に耳を傾け、生徒の学びをしっかりと見取り、改善に生かすシステムを用意することだと分かる。

(3) 授業観察シートの工夫と蓄積 ～研修と実践の一体化～

毎年、教員が入れ替わることで若い教員が増えていること、この2点を念頭において、協同学習の考えや授業の方法をどのように継承していくかを考える必要がある。本校では、目的を明確にした4つの研修を設定している。また、授業観察シートに継承したい手法や考えを盛り込み、年4回の研究授業に使用することで、協同学習の授業のポイントが実践に即して伝えられるようにした。

(4) 継続・継承に向けた課題 ～授業改善を学校改善に～

① 授業改善の継続のために、めざす生徒像を授業中の具体的な姿で示し、学校全体として取り組みやすくする。

【主体的な学び】…分からないことを友だちに訊く姿

【対話的な学び】…ペアやグループで話し合う姿

【深い学び】…訊かれた友人に教え説く姿

② “授業改善は学校改善”の考察

協同学習による授業改善への取組と授業以外の変化との関連性を分析することで、授業改善が学校改善にどのように関連しているかを示したい。例えば、協同学習による授業改善の取組と不登校生徒の減少との関係などである。これにより、授業改善に取り組む必要性を高めたい。

